

執筆者紹介（掲載順）

大山和哉（本学助教）

平石岳（本学嘱託講師）

中嶋優隆（本学大学院博士後期課程在学学生）

佐藤未央子（早稲田大学総合人文科学研究センター
招聘研究員）

加藤直志（名古屋大学教育学部附属中学校・高等
学校教諭）

胡鴻洋（本学大学院博士後期課程在学学生）

八木智生（本学大学院博士後期課程在学学生）

北上真生（弘前市立博物館主査兼学芸員）

編集後記

本号は、研究論文が五本、国語教育の論評が一本、資料紹介が二本となった。コロナ禍に関わって調査研究及び教育における様々な制限がある中、今号も無事発行できることとなり、誠に嬉しく思う。彙報欄にも記した通り、同志社大学国文学会の活動も今年度はやむなく中止となったものが多く、とりわけ合宿や国文遊歩など、院生部会や学生部会の活動が制限されたことは悔やまれる。一方で、研究・教育面では必ずしも不利になることはなかった。

オンラインによるリアルタイムの学会や研究会は、会場から遠隔地に住む人、中には国外に住む人にも参加の機会を提供するものとなった。また、資料調査に赴くことが難しい状況だからこそ、諸機関が提供する画像データベース等の情報源を活用した研究が進展したという場面もあっただろう。

教育においては、数多のツールを用いて試行錯誤することで、オンラインの強みを活かした授業が可能となり、むしろ効果的な手法が見えたということも多かったのではないかと。

すでにそうした研究・教育の成果が世間で公開されつつある。会員諸氏にも、引き続き積極的な投稿を期待したい。